



旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校

学校便り 12月号

平成25年12月3日発行

発行責任者：竹淵 正人

つるべ落とし

校長 竹淵 正人

「釣瓶」とは、水を汲むために竿や縄の先につけて、井戸の中におろす桶のこと。井戸の中へ釣瓶が落ちてゆく速さ。そんな速さで秋の日は暮れるということです。若い人たちは、この言葉の意味も知らないだろうし、ましてや使うことなどないでしょう。味わいのある日本語が使われなくなることに寂しさを感じます。このところの寒さで、校庭や通学路脇の木々からも赤や黄色に色づいた葉が落ち、冬の到来が感じられる季節になりました。人生も1年間の季節の営みのように感じます。私も子どもの頃はなかなか年を取らず、小学校6年間が非常に長かったことを思い出します。最近、年を重ねるほどに1年間が短く感じ、まさに「つるべ落とし」のようです。とはいえ大切な人生です。悔いのない人生を過ごしたいものです。

年を取っても幼少期の貴重な経験は鮮明に覚えているものです。11月30日に行われた音楽発表会、地域や保護者、大勢の方々のご来校をいただきたくさんの声援をいただきました。ありがとうございました。11月に入って練習を重ねた成果を発表会で出すことができました。旭丘小学校の児童の声は澄み切ったとても良い声をしています。しかし、一人ひとりがばらばらでは、澄み切った声もコーラスとして成立しません。クラスが一つになってこそ、美しい歌声が響くのです。この協働して物事に取り組む姿勢をしっかりと身につけ、今後に生かしてほしいと願っています。

インターネットを見ていると様々な情報が入ってきます。「亭主閑白の会」というHPをたまたま見ました。そこにはなるほどと思わせる三原則があったのでご紹介します。

1 愛の三原則

ありがとう をためらわずに言おう

ごめんなさい を恐れずに言おう

愛している を照れずに言おう

2 家族の絆三原則

聞こうよ **書こうよ** **話そうよ**

3 相づち三原則

そうだね! **分かるよ!** **その通り!**

4 非勝三原則

勝たない **勝てない** **勝ちたくない**

争わないことが、真の勇者であり、勝者なのだ。

上記の三原則は夫婦や家族の関係を円滑に保つための心構えですが、家族や学校の中で、孤独を感じた時、共感してくれた隣人の一言や、何気なく掛けた一言が、周りの人に温かい気持ち与えたり、反対に元気をもらったりします。共感の一言に温かいものを感じたり、「ありがとう」や「ごめんなさい」、「そうだね!」、「分かるよ!」など聞き慣れた一言で元気が出ます。改めて「言葉の温かさ」を見つめ直したいものです。